

科目名	担当教員	学期	単位
英語ライティング実習A (ジャーナリズム)	小西 和久	前期	2

講義概要

本実習では、邦字紙のニュースをもとに受講者各自が英文記事を作成し、それをオンラインニュースに掲載された英文記事と比較することを通じて、英文ジャーナリズムで重視される文章作成法を学ぶ。オンラインニュースとしては、同一の邦字紙ニュースをもとに本実習担当教員が英文ニュースとしての体裁を整えながら英訳し、英文デスクの校閲を経たものを使用する。

具体的には、第一回目以降毎週、科学技術や関連ビジネスについて邦字紙が伝えた最近の記事（授業計画参照。但し、より新しいニュースを使用する可能性がある）を受講者各自に配布する。これを題材にして実習日2日前までに各自が英文記事を作成し、担当教員にemailで送付してもらう（日本語記事は500から800字で、英文記事にすると通常250から450語程度となる）。

実習日には、日本語原稿、担当教員が作成した英文記事原稿、邦字紙東京本社英文copy-desk chief→米国のcopy editor→再度copy-desk chiefによる校閲を経てオンラインニュースとして報じられた記事を教材として、英文ジャーナリズムの文章作成法を学ぶ。特に、情報提示の優先順位の付け方、簡潔明瞭な英文の書き方、個々の表現の工夫や句読法の用い方といった点を検討する。併せて、受講者各自の英文原稿から指摘すべきポイントを抽出し解説する。

シラバス

- [第1回] 簡潔明瞭な英文を書くための5つのポイント
- [第2回] 「トヨタ、量産・技術革新で燃料電池車コスト1/100へ」
- [第3回] 「『都市鉱山』の積極的な開発・利用推進を（社説）」
- [第4回] 「経済産業省、資源生産性向上に向け新税創設」
- [第5回] 「米ダウ・ダドレーコーポレート副社長、市場密着型で機能性製品群拡大」
- [第6回] 「富士フィルム、塗布系で半導体向け絶縁膜で誘電率2.0以下へ」
- [第7回] 「太陽電池、供給過剰の懸念 2010年生産量、需要の2倍」
- [第8回] 「経済産業省、太陽光発電でアクションプラン」
- [第9回] 「5千億円台に突入した触媒市場」（社説）
- [第10回] 「大型液晶向け配線、銅合金に前面転換可能：東北大学」
- [第11回] 「ナノ素材の徹底した健康影響調査を（社説）」
- [第12回] 「三菱ケミカルホールディングス・小林喜光社長（持続成長への道）」
- [第13回] 「原油高騰で再評価進む総合化学路線（社説）」
- [第14回] 「G8環境大臣会合、2050年に温室効果ガス半減合意へ協調」
- [第15回] 「激動のポリシリコン 日本勢、慎重姿勢に変化」

教科書

プリント配布

参考文献

評価方法

各自が提出する記事原稿に出席率を加味する。

関連URL

備考